

非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設

採取責任医師各位

輸血責任医師各位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会遠心型血液成分分離装置が故障したため転院し採取した事例について

平素より骨髄バンク事業の推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、非血縁者間末梢血幹細胞採取において、機器故障のため転院して採取した事例が報告されました。情報共有の観点から、本事例を採取認定施設へ周知いたします。

記

■採取当日の概要 使用機器：Spectra Optia

時間	機器	ドナーと当該施設の動き
9:00		上肢の末梢血管確保が困難、手術室で右大腿静脈に透析用ダブルルーメンカテーテルを挿入。
9:30	プライミング開始。「返血ラインエアー検出器の液体チェックで不合格となりました」アラーム発生。	採取責任医より JMDP へ状況報告。
10:30	テルモ BCT へ連絡。返血ポンプの回路を確認したが異常認めず。回路を破棄し新しい回路でプライミング開始。指示通り返血側ポンプのセンサー辺りを奥まで押し込んだが、再度同アラーム発生。センサーを清掃後、再度新しい回路でプライミング。再度同アラーム発生。当機器での採取は不可と判断。センサーの異常が考えられ、修理手配。	近隣施設にPBSCHの受入れを打診。転院する方針となる。(業者到着まで4時間以上かかる上、本日中に修理可能か不明。代替機については県外から5~6時間かけて搬入する必要があった)
12:45		担当医よりドナーに状況を報告し、転院して採取することに同意いただく。ご家族にも担当医より電話で説明して理解いただく。
14:24		大腿静脈アクセス留置中のため、救急車に担当医、HCTC が同乗し、近隣施設へドナーを搬送。到着後、採取担当医から診療情報提供書と共に直接申し送りを実施。HCTC が病室まで付き添う。
16:00	テルモ BCT 到着。返血ラインのエアー検出器の故障が確認され、エアー検出器を交換し、修理完了。	転院先でアフレーシス開始。

<当該施設における今後の対応策> (購入日:2016/9 最終点検日:2023/3 (年1回スポット点検))

点検は、スポットで年1度実施していたが、経年劣化等も考慮し、頻度を増して半年に1度とする。

■本委員会からの推奨

不測の事態が発生した場合でも迅速に対応できるよう、近隣施設との連携等を想定した体制の整備をご検討ください。

以上